

幼稚園の教育目標

「なんでもごいっしょ」「いっしょうけんめい」「すなおでよいこ」

- ★心の育つ大切な時期に聖書を通して「神の愛」を知り、思いやりの心、感謝の心・奉仕の心を培う
- ★よく考えて工夫し、自分の個性をすすんで表現し、のびのびと行動できる子どもに育つ
- ★集団生活の中で、自分の存在・役割に気付き、責任をもってすすんで働く子どもに育つ
- ★何でも途中で投げたり挫けたりせず、少しずつ粘り強くやり抜いていく力を育てる

<自己評価>

1、本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画をもとに設定した学校評価の具体的な目標や計画

- ①コロナウイルス感染拡大防止を第一に考え実施してきたさまざまな行事を、状況をみながら従来の方法や新たなやり方を考え実施していく。
- ②季節に応じた自然との触れ合いや畑で育つ野菜の種蒔き、水やり、収穫等を体験し自然との関わりを充実させる。
- ③特別支援が必要な子どもへの関わり方を専門家の意見を聞きながら特別支援教育を充実させていく。

2、評価項目の達成及び取り組み状況

評価項目	結果	理由
①行事の実施	A	コロナの感染防止を十分に考慮し、従来の方法や新たなやり方を検討しながら実施してきた。園児も保護者も楽しむことができた。 ・運動会やお遊戯会は、学年別や学年によって場所を変えて（運動会）実施してきたが、今年度は全学年の園児が一緒に行き、保護者の参観の人数制限もせず実施したことで活気溢れる運動会になった。 ・保育参観はズームで実施してきたが、今年度は保護者が来園し子どもたちの姿や子ども同士の関わりなどズームでは見られない様子も参観してもらうことができた。 ・敬老の日は、新たなやり方として遠方の方やさまざまな事情で来園できない方のことも考慮し、今年度もズームで行った。祖父母の方々からは家庭にいて子ども達と繋がることができたことと好評であった。子ども達の合奏や製作活動、招待状郵送など内容は変えず実施した。 ・クリスマス会は、保護者の参加は学年ごとの入場入れ替えで行っていたが、今年度は全園児の保護者全員が一堂に会し礼拝をし、他の学年の聖誕劇を見ていただくことで子ども達の成長を感じていただくことができた。

②自然とのかかわり	A	<p>【園庭】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・園庭のキンカンやミカンを挽いでジャムにして食べることができた。自然に実った味を味わうことができた。 ・ヘチマを栽培し子ども達が生長の過程を観察していくことができた。収穫後、食べることはしなかったが乾燥させてタワシにし子ども達が遊具の掃除の時に使用して感触等を味わうことができた。また、昔は、ヘチマから作ったタワシが主流であったことも知ることができた。 ・農業体験の一環として、土を耕し、稲を植え、稲を刈り、脱穀をして、米にするまでの収穫を体験した。 お米は、脱穀をすり鉢でしたことで、昔の脱穀の方法を知ることができた。 ・園庭の片隅から出てきた筍にも子ども達が気づき、日々成長していく様子を楽しむことができた。 ・季節によって咲く花にも興味関心をもって観察することができた。 *ブラシの木、紫陽花、バラ、タイサンボク、桜、チューリップ等 <p>【畑】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・畑では、きゅうりや大根の収穫やじゃがいもの種芋を植えるなどの活動を行った。 ・大根は年長児が種蒔きをし、水やりをしながら収穫まで生長観察を続けていった。 ・年中児、年少児は収穫時に葉の様子や収穫の方法などを学び、実際に収穫することで大根の重たさや冷たさを体験することができた。 <p>【地域との連携】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度は、地域の公園の花壇の世話する地域活動「花咲かせ隊」に参加した。年長児が定期的に少人数でジョウロをもって水やりに参加した。地域の環境を考える一貫としての活動ができた。
③特別に支援が必要な子	A	<ul style="list-style-type: none"> ・特別に配慮が必要な子どもとの関わり方や配慮する点などを定期的に専門家（「発達支援協会」）からのアドバイスを聞くことができた。 ・実際に活動や他児との関わり、遊びの様子などを見てもらうことにより具体的なアドバイスを聞くことができた。 ・問題点や関わり方など、戸惑っていたことが整理され、子どもとの関わり方を学ぶことができ貴重な時間となった。

<学校関係者評価>

1、学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

結果	理由
A	<ul style="list-style-type: none"> ・行事は、コロナ感染防止を考慮しながら従来のやり方での実施や新たな取り組みの仕方を検討しながら実施してきたことで、改めてその行事の意味を考える時間がもてたことは評価される。また、子ども達も保護者も日常とは違う園の行事を経験することができたことは更に評価されることである。 ・自然との関わりでは、園庭、畑、地域との連携などそれぞれの場で子ども達に自然に関わる機会を与えられたことは子どもの成長・学習に還元でき評価されることである。特に自分達で「種蒔き」「世話」「収穫」「食する」の一連の流れを体験できたことは食育としても良い学びになり多に評価されることである。この活動を写真、ビデオ等に記録を撮っていき子ども達と見直す機会が設けられれば更に深い学習に繋がると思う。 ・特別支援の必要な子どもにとって、どのように接し関わっていけばよいのか職員間だけで模索していくのではなく、専門家に日常の子どもの活動、遊び、友達との関わり等を見てもらいアドバイスやディスカッションをすることで、その子にとっての適切な関わり等を学び実践していくことができたことは、最善の教育になったと評価できる。

※「3・4」の評価結果の表示方法

A	十分達成されている
B	達成されている
C	取り組まれているが、成果が十分でない
D	取り組みが不十分である

5、今後取り組むべき課題

課題	基本的な取り組み内容
①安全対策	<ul style="list-style-type: none"> ○自然災害や人的被害から身を守るための訓練 <ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練の時間帯が、毎回同じ時間にならないようにする ・時間を設定せずに、抜き打ちで行う ・プレクラスも合同で行う ・延長保育の時間内での訓練を実施する ・不審者が侵入した時の訓練を実施する ○安全点検、衛生管理に努める <ul style="list-style-type: none"> ・園庭の遊具や保育室の備品等の安全確認を実施する ・保育室やホールの遊具の消毒作業の方法を考え実践していく 特に園庭のログハウスの2階のままごとのように目立たないところに置いてある遊具の消毒のありかた
②職員間の連携	<ul style="list-style-type: none"> ○職員間で一人ひとりの子どもの成長・教育を共通理解し関わる <ul style="list-style-type: none"> ・担任、フリーの職員がその日の子どもの様子を情報交換し関わり方を検討し共通理解をする ・担任は、他の職員がその子にとって必要のない援助に対しては制止を促す ・正規職員、パート職員問わず、職員がもつ専門分野や能力を生かし教育の質の向上をめざす。